2011年度

卯月講
講演 江戸の町の成り立ち

徳川家康は天正18年(1590)の八朔(8月1日)に江戸に入った時、すでに城下町江戸のマスタープランを描いていた。武蔵野台地は武家地（赤坂、麹町、市ケ谷、四ツ谷）にして、町人の住む下町（日本橋、京橋、神田、下谷、浅草）は、堀を巡らした水の都にした。京都をひな型にした京間60間四方の両側町の町名は、伊勢町、駿河町などの出身地名、紺屋町、木挽町などの職業名、御徒町、大番町などの幕府役名、加賀町、尾張町などの埋め立てた藩名が付けられた。

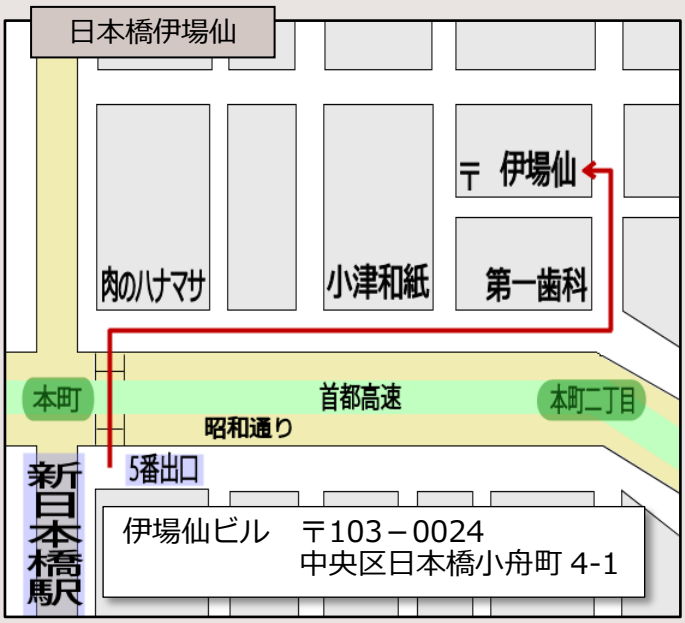
町人の人口は、寛永期に約15万人、元禄期に約35万人、享保期には50万人を超え、浮世絵、歌舞伎、俳句などの町人文化が生まれた。

講師紹介

岡安克之（おかやすかつゆき）

還暦を迎えてから『二人の写楽』と『百舌が鳴くとき』の時代小説を刊行した。その時にカルチャーセンター・文化センターから「江戸を探検する」や「江戸を学ぶ」の講座の依頼を受けた。それを契機に、江戸に関する講座や東京都内にある江戸史跡をたずね歩く講座を毎月5回ほど繰り返している。

江戸の史跡巡りは、まず、歩く前に江戸に関する資料やガイドブックを調べることから始まる。つまり、「調べる」「突き合わせる」「納得する」ことが第一歩であり、それから下見を行う。下見では、「見る」「説明を聞く」ことになるが、大切なことは自ら「感ずる」ことである。だからこそ、歩くたびに新しい発見が生まれる。



開催日時：4 月 23 日（土）　15 時～17 時
開催場所：日本橋伊場仙ビル 7 階
参 加 費：1000 円

14時～15時に平成23年度の総会を行います。

終了後近くで懇親会(3000円)を行います。

JR横須賀総武線 新日本橋駅(5番出口)徒歩6分
銀座線･半蔵門線 三越前駅